

(2) 平成26年度 輪島市立鳳至小学校 学力向上プラン

「確かな学力を身につけ、主体的に取り組む子の育成」
 ～根拠や筋道を明確にして、自分の言葉で説明する力をつける授業をめざして～

I 本校の実態 (○良好 ▲課題)

教科に関して	生活面に関して
○学力テストの無解答率が減った。 ○家庭学習をがんばる子が増えてきた。 ○落ち着いて集中して学習できる子が増えてきた。 ○算数科の授業が「好きである」という児童の割合が高く、「教えて考えさせる授業」スタイルに慣れてきた。 ○「書くこと」の研究を継続してきたことで、書く力が向上してきた。 ▲記述式問題の正答率が少しずつ向上しているが全体的にはまだ低い傾向がある。 ▲段落の関係を考えながら読んだり、細かな部分まで正確に読み取ったりすることに課題がある。	○明るく元気である。 ○きちんとあいさつができる児童が多くなってきた。 ○アンケートの結果から、「学校は楽しい」と答えている子が多くなってきた。 ○授業の始め終わりの挨拶がきちんとできる。 ○外遊びが大好きで寒い日や天候の悪い日でも外で元気に遊んでいる子が多い。 ▲忘れ物の多い子や片付けが苦手な子もいる。 ▲テレビやゲーム等に費やす時間の増加、基本的な生活習慣の「早寝」「早起き」については、学年が上がるにつれて指導が必要な児童もいる。

II 指導改善の課題 (◎は、重点課題)

授業作りにおいて	基盤作りにおいて	体制作りにおいて
◎基礎的・基本的な知識の定着 ○「教えて考えさせる授業」の構築 ペア学習を含めた「説明活動」の充実 ○学校裁量の充実	◎「書く力」を伸ばす ○家庭での学習習慣の確立 ○読書習慣の推進・充実	◎三研究部会の体制作り ○校内研究の充実 ○家庭や地域との連携

III 具体的な取り組みのポイント

【いしかわ学びの指針12か条の重点項目】

- ・1条 根拠や筋道を明確に表現させる。
- ・3条 習得した知識・技能を活用・対応させる。

授業作り	基盤作り	体制作り
◎基礎・基本の確実な定着と向上 <学びの指針 1条・3条> ・奥能登スタンダードに示された指導事項を確認し、授業のねらいを明確にして、授業にのぞむ。 ・板書計画をしっかりとって授業にのぞみノート指導を充実につなげる。 ・「読書タイム」・「リテラシータイム」	◎「書く活動」の工夫と充実 <学びの指針 4条> ・各教科で言語活動を充実させる。 ・「チャレンジ短作文」に全校で取り組む。 ・学習したことを「ふりかえり」の段階でノートやワークシー	◎校内三部会の体制づくり <学びの指針 11条> ・「研究部」として授業研究部、学習環境部、読書活動部の三研究部会を設置し校内研究の充実を図る。 ・「授業研究部」は、主に校内授業研究の計画とその推進、

を全学年で系統的な内容で取り組む。 ・年3回の全校テストを実施し、基礎基本の定着を図る。また優秀者は表彰し、意欲的に取組ませる。 ・子どもたちに「適度な競争意識」を与え、学習意欲の向上を図る。 ・習熟の程度に応じた学習集団を編成し、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ○「教えて考えさせる授業」の構築 <学びの指針 1条・3条> ・「教えること」「考えさせること」を明確にし、分かりやすく効率のよい学習指導の実践に努める。 ・「ふりかえり」を充実させることで、確実なねらいの達成を図る。 ・課題を明確して意欲的に取り組めるようにすることで「学びの自覚」を持って学習にのぞみ、「分かる喜び」を感じる授業を目指す。 ・「ペア学習」で理解確認をすることで、「ねらい」に迫る授業作りをする。 ・「説明活動」を取り入れることで、学習意欲を高め、思考力・判断力を育てる。 ○教室掲示の工夫 <学びの指針 7条> ・既習や前時までに学習したことを活用して児童が主体的に学習に取り組めるように、学習のあとが分かるような掲示や、学習の見通しがもてるような掲示を工夫する。 ○学校裁量の充実 <学びの指針 3条> ・基礎・基本の定着はもとより、活用力の育成を目指し、学校裁量の時間に適用問題や活用問題などを取り入れる。	トに書くことを学年に応じて指導する。 ・国語辞典を使い意味調べをすることで、語彙を豊富にし言語能力の育成を図る。 ○学習習慣を身に付ける <学びの指針 7条> ・家庭学習の目標時間を、低学年20分、中学年40分、高学年60分とし、「家庭学習の手引き」をもとに、その内容の充実を図る。 ・家庭学習の方法を明確に指導し、特に自学学習（がんばり勉強）に取り組ませ学習意欲の向上を図る。 ・分かる楽しい授業づくりを目指すことで、家庭学習の内容の充実に結びつける。 ○読書活動の推進・充実 <学びの指針 8条> ・各学年で作成したお勧めの本リストの読破を目標にし、読書活動を推進していく。 ・23日の「石川読書の日」と連動し、「鳳至小読書強化週間」を設ける。 ・毎月3回の「鳳至小読書の日」を設定し、家庭での読書習慣を定着させる。 ・学級文庫を充実し、いつでも子どものすぐ近くに本があるようにし、読書の機会を増やす。 ・図書館司書と連携しながら図書館を調べ活動の情報センターとして活用させる。	各種学力テストの分析・考察・対応策を検討し、実践する。（学力テスト等分析結果対策一覧作成） ・「学習環境部」は、主に学習規律の定着とリテラシータイムについて検討提案する。また全校テスト等の企画、実施を図る。 ・「読書活動部」は、全校朝読書の検討・提案、読書活動の実施計画の作成と推進、また学校図書館の運営計画の作成と推進を図る。 ○校内研究の充実 <学びの指針 11条> ・月1回研究部会を開催し、その内容を全体研究会で協議し、共通理解のもと実践する。 ・年間1回、全員が研究授業を行い指導案検討会・整理会を実施し、授業力向上を目指す。 ・模擬授業を行い、良い授業のイメージを持てるようにする。 ・板書ツアー、掲示物見学ツアーを実施し、教師自身が常に学び合い、授業力向上に努める。 ・外部からの講師を招いての研修会を実施する。 ・研究発表会に積極的に参加し報告する。 ○家庭や地域との連携 <学びの指針 12条> ・学校だよりや学年だより、ホームページを活用して、教育活動の様子を知らせる。 ・保護者の協力のもと、アンケートを実施し教育活動に生かす。
--	--	--

IV 検証方法

- ・全国学力調査，県基礎学力調査，輪島市学力調査の結果の分析・考察
- ・全校テスト（漢字・計算）の実施・合格率の検証（年３回）
- ・ノート，ワークシート，授業の振り返り，評価，記録
- ・**算数アンケート(年2回実施)の結果の分析・考察**
- ・学校評価の実施（年２回の職員，保護者，児童アンケート）
- ・各クラス別図書館の本の貸し出し数，おすすめの本リストの読書数を一覧にして検討